【泰山（たいざん）は土壌（つちくれ）を譲らず】

秦の始皇帝がまだ西国の一国王でしかなかった頃のこと、秦国譜代の重臣たちが、よそ者の追放を議決し、これを実行しました。その時、よそ者であったために大臣職から追放された李斯という人が秦王に上書した文の中にある言葉として有名です。

泰山は中国第一の名山で、諺などによく出て来る山の名です。さて、この上書文の原文には、このあと「故に大なり」とあり、続いて「河海は細流をえらばず。故に深し」と対句になっています。

その意味は「高大な泰山は、わずかな土くれでも辞退せずに受け入れたからこそ、あのように高大になったのである。また、黄河や大海は、どんな細い流れでもえり好みしないで受け入れるからこそ、あのように深くなったのである。よそ者だからと言って、これを排斥するような狭量な気持では、とても天下統一の大事業は出来ない。大小、清濁併せ呑むの大度量が必要である」という意味です。

秦王はこれを読み、もっともだと思い、李斯を元通り大臣に登用すると同時に、よそ者の追放令を廃しました。それで秦は、彼の謀を用いて天下を統一することに成功するわけです。

さて、壌と譲という字が用いられていますが、この“譲”についてお話したいと思います。襄は、旧字体は“襄”です。衣と口口と[illegible]の三つから作られた字です。衣は、言うまでもなく、“着物”のことです。口口は、口を二つ並べたもので、「口論する」「議論する」ことを表わしたもので、「ワイワイ騒ぐ」「ブツブツ言う」という意味や「戦う」（戦）という意味に使われます。

[illegible]は、古い形は、人と土と手の組合ったものです。だから、襄は、着物を脱いで、ワイワイ言いながら畑仕事をすることを表わしたもので、「仕事の能率を上げ、仕上げる」という意味の字です。“醸造酒”の醸は「酒を作る」ことです。酒の材料を仕込み、何日かすると発酵してブツブツ言い出します。それが止んだ時が、酒の出来上がりです。“譲も、お互いに言いたいことを十分に言うと、自然に相手の立場や気持もわかり、“ゆずる”気持になり、対人関係が立派に出来上るのです。“謙譲”とは、ただ相手の言うなりになる“従順”とは違うことをよく知ってほしいと思います。

“嬢”は、「出来上がった女」ですから、ほんとは幼い女の子を「お嬢さん」というのはおかしいわけです。また、壌が「穀物や野菜を立派に作り出せる土」を意味する字であるように、嬢は「立派に子供を生む能力をもった婦人」という意味の字である、と考えられます。

“五穀豊穣”の穣は、「立派にみのった稲」という意味の字です。人名では“みのる”と読みます。ついでに、襄の人名が“のぼる”というのは同じ字音の“上”から借りたものです。